飛龍の1歩手前「躍龍」

占いとウラあり ＝講座篇＝

竹村亞希子

ざっくりと説明するならば、大人からコピーしたものを崩す時代。これである。

さて、君子終日乾乾には「龍」の文字がない。変である。が問題はない。君子が龍なのである。

簡単にまとめることにする。「問題が起こることよりも、それに対処できないとしたら、そのことを恐れなさい」。つまり対処能力を培うべき時なのである。

かくして君子終日乾乾で「プロとしての力を身に付けた」龍は、次に進む。企業人でいうなら取締役昇進である。

「躍龍」だ。

飛龍の1歩手前である。

「躍る」とは飛龍のまね事である。一瞬だけ空中にいる。ただ表面的になぞるだけではいけない。本番さながらのシミュレーションなのである。

言葉を換えよう。

完成直前の状態なのだ。

いつ飛龍になってもいいように、その時代がいつ満ちてもいいように、準備を怠りなくしていなくてはならないのが躍龍の時代なのである。

見龍の時代。

基と型を徹底してまねる時代であった。完ぺきなコピーである。

そうして見龍の次の時代が「君子終日乾乾」だ。

基本の次。それは基本から本物の技を創出する段階である。

想像力、創意工夫、オリジナリティー、本物の個性などを開花させる時。

基本から本物の技を創出

何を切る？ 実戦麻雀

問題 東場4局。390点のプラスで2位の西家。トップとは1300点の差。1巡目に[發]が暗刻となり[●]打。2巡目に[三]が入った場面。ドラは[一]。

ツモ ドラ

[一][一][一][二][二][二][三][三][三][四][四][四][五][五] [一] [發][發][二万][三万][六万]

ここで次の応手が考えられるが、どう構えるのがいい？

❶ [●]切り
❷ [六万]切り
❸ [一]切り

解答は左下に

❶年前

【6月3日】